

2005年 第9回日本代替・相補・伝統医療連合会議 (JACT)

アレルギーおよびアトピー性皮膚炎モデル動物に対するサプリメント「玄精」の軽減作用

○大縄悟志、伊藤幸恵、三浦竜介 a、野口政宏 b；エイ・エル・エイ、a ディー・シー・エス、b 野口漢方医院

「玄精」は、日本古来の伝統的な食材である穀類、根菜類、海藻類等を主原料とし、東洋医学的な見地に基づき肺の機能及び肝臓の機能を改善することによって、アトピー性皮膚炎や湿疹など、肌のトラブル解消に役立つ為処方されたサプリメントである。我々は「玄精」のアレルギー及びアトピー性皮膚炎軽減作用を動物モデルを用いて検証した。

【方法】

試験 1) PCA (受身皮膚アナフィラキシー) モデルによる即時型アレルギー抑制作用の検討：8 週令、Wistar 雄性ラットの背部皮内にマウスモノクロナール抗 dinitrophenyl(DNP)-IgE 抗体を注射してアレルギー感作した。46 時間後に「玄精」を経口単回投与 (300mg/kg) し、2 時間後に DNP 化牛血清アルブミンを含む 1% エバンスブルー水溶液を静注して PCA 反応を惹起させ、更に 1 時間後、背部皮膚における漏出色素面積を測定した。陽性対照には Prednisolone (30 mg/kg) を用いた。

試験 2) アトピー性皮膚炎モデルマウスを用いた臨床症状の改善作用：8 週令、BALB/c 雄性マウスを用い、1% (w/w) 「玄精」添加飼料を自由に摂食させた。摂食開始 7 日目より 2 日間隔にて計 13 回、マウスの左右の耳の両面に、ピクリルクロライドを塗布し皮膚炎を誘発した。臨床所見として耳介部の肥厚を計測し、炎症の程度をスコア化した。また血清総 IgE 濃度を測定した。

【結果】

試験 1) 漏出色素面積は対照群 $18.4 \pm 1.9 \text{cm}^2$ に対し、陽性対照群 $12.1 \pm 1.6 \text{cm}^2$ 、「玄精」群 $14.3 \pm 1.9 \text{cm}^2$ と有意 (共に $p < 0.01$) に小さかった。

試験 2) 耳介肥厚は誘発 3 回目以降、対照群と比較して「玄精」群が低値で推移し、誘発 13 回目においては対照群 $1.7 \pm 0.2 \text{mm}$ に対して、玄精群 $1.3 \pm 0.1 \text{mm}$ と有意 ($p < 0.01$) に低かった。耳介スコアにおいても「玄精」群が終始低値で推移した。血清 IgE 濃度は誘発 3 回目以降、対照群に比べ「玄精」群が低値で推移し、誘発 13 回目において対照群 $77.2 \pm 35.6 \mu \text{g/ml}$ 、「玄精」群 $46.3 \pm 24.3 \mu \text{g/ml}$ と有意 ($p < 0.01$) に低かった。

【結論】

「玄精」は、アレルギーおよびアトピー性皮膚炎の軽減作用が期待されるサプリメントとして有用と思われる。